



北より拓くキャリア教育

秋田県立大館国際情報学院高等学校 キャリア教育通信【第12号】

H29.2.14

【商品開発：国際情報科 課題研究】

2月11日(土)～12日(日)大館アメッコ市で、国際情報科の課題研究で商品開発した2つの“特産品”の販売が行われました。一つは大館商工会議所青年部のみなさんと共同開発した「大館ぽっカレーうどん」、もう一つは大館市内の菓子店大正堂さんと共同開発した「かぼちゃプリン」です。「地域資源を活用した産業振興」を目指し、地元の方々の協力をいただきながら研究、つくりあげたものです。

学びの中で自ら課題を設定し、その解決に向けてさまざまな方法を研究するというこの課題研究で身につく力は、いまキャリア教育で求められている力そのものです。このアメッコ市に先立ち、2月7日(火)に秋田職業能力開発短期大学校で行われた学生や高校生が研究活動を紹介する合同発表会にも参加し、大館特産エダマメを使った商品開発についても発表しています。

当日は、たくさんの方がお店を訪れ大盛況でした。国際情報科のみなさん、大変お疲れさまでした。



「大館ぽっカレーうどん」

国際高生と共同開発
アメッコ市で販売

大館商工会議所青年部(高橋清仁会長)が大館国際情報高の生徒と「大館ぽっカレーうどん」を共同開発し、11、12の両日に大館アメッコ市会場(ホテルトイン大館前)

新しい当地グルメを確立しようと、授業で商品開発に取り組む2、3年生からアイディアを募ったところ13点が集まり、複数案を絡めて大館まぐら豚や比内地鶏卵、エダマメ、ナガイモとうろをを使ったカレーうどんを考え出した。

1食450円。チーズのトッピング(50円)も用意する。購入者の反応を見た上で、青年部会員の飲食店で提供するかどうか検討する。

地元食材を使った「大館ぽっカレーうどん」

うどんやニンジン、タマネギなどの食材も地産地消を目指し、カレーは「当地グルメの代表格」として日本人に親しみを温めるメニューだとして「心も体もホカホカ」なカレーうどんを考えた。

うんやんやん、タマネギなどの食材も地産地消を目指し、カレーは「当地グルメの代表格」として日本人に親しみを温めるメニューだとして「心も体もホカホカ」なカレーうどんを考えた。

2月8日 北鹿新聞

大館産「かぼちゃプリン」

国際高生と大正堂考案
アメ市で限定販売

大館国際情報学院高の3年生と大館市の菓子店・大正堂(小杉社長)と共同で

地元の食材を使った「かぼちゃプリン」を考案し、11、12日の大館アメッコ市(大館食品デパート前)で限定販売する。

考案したのは国際情報科の産藤花さん(18)と石田賢実さん(18)と大正堂の社長さん(17)。

昨年からは課題研究「地域資源を活用した産業振興」に取り組み、これまで大館産エダマメやブルーベリーなどを使った菓子も作った。

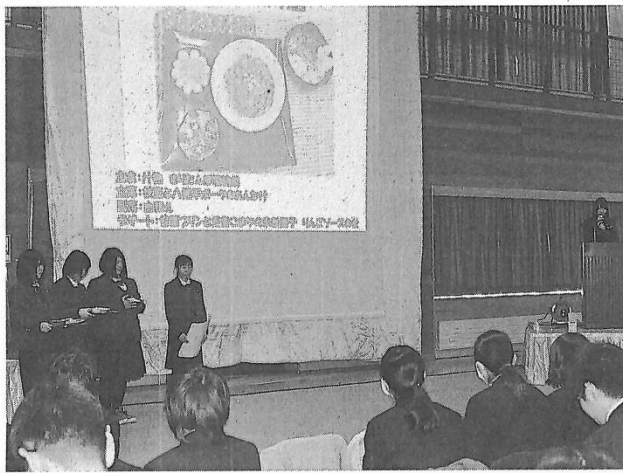
今回は、旬の野菜から糖度が高いカボチャの品種「雪花粧」と比内地鶏卵を選び、素材の甘さを活かすための食感に仕上げた。1個260円。両日も午後1時から5時、計100個を用意する。

「かぼちゃプリン」を手にする生徒ら(大正堂)

3人は「商品開発をからた手に味わってもらい、大館で採れた食材のおいしさを伝えたい」と話している。

きものができた「地域の人の手に味わってもらい、大館で採れた食材のおいしさを伝えたい」と話している。

2月9日 北鹿新聞



食や街づくり、若い提案

ポリテック
ビジョン
職能短大で学生や高校生

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（舟治健校長）で7日、28年度第3回「ポリテックビジョンINおおたて」が開かれ、学生や高校生が研究活動を紹介する合同発表会を行った。地元食材を使った商品開発やレールバイクの製作など、若い感性を生かしたアイデアが紹介され、学校関係者や地域住民らが聴き入り、郷土食の開発をテーマに発表する高校生（秋田職能短大）

た。教育交流などを目的に近隣高校に参加を呼び掛け、大館国際情報、十和田、秋田北鷹、大館桂枝の4校が参加。職能短大、東北職業能力開発大学校も含め、11題の発表が行われた。学生や高校生、保護者ら約400人が参加した。

国際情報国際情報科は大館で栽培が広がるエダマメの商品開発活動を紹介した。地元食材と組み合わせ、おむすび「緩むすび」を完成させイベントで販売。「エダマメが大館の特産物として認知されるよう、これからは商品開発に力を入れたい」と述べた。北鷹家庭クラブは、生徒に塩分摂取の調査を行い、「健康」の視点で商品開発に着手。地元産の山菜パウダーを使った「山菜葉膳カレー」など減塩レシピを作り、「今後も地域に根ざした健やかなおいしいメニューで多くの方々と活動を広げたい」と語った。

十和田は鹿角の郷土食の開発がテーマ、桂枝は七宝焼による校章作成など工業系学科の生徒が発表した。職能短大の学生は「レールバイクの設計・製作」

「教育用ロボットのカラーセンサーについて」「大館市における『まち育て』について」と題し発表。大館駅前、御成町、大町の3地区に分けて街づくり計画の提案を行うなどした。

校内では東北の4校の学生が参加し、電子情報系もつくり競技会も開かれた。

JAあきた北 **冬期営農講座**

JAあきた北では、管内主力品目を柱とした複合作物の振興を強化し、私たちの生活を守るため。